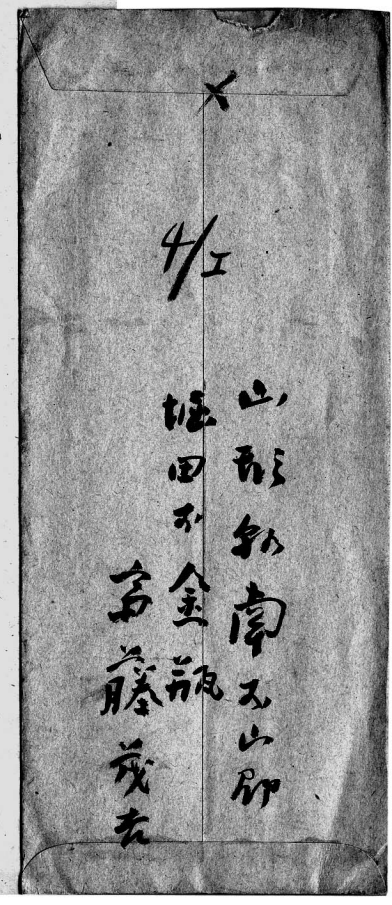
○このごろ、（三十の川）一月四つにみぞれいでおります。
○日華倫会の先生の御話は船酔いのかかる船にそなたが野良後、話半ばとしてはたらきやるくいのんとり紛うれそうが、防そどにはなとうれいなくなってそうそう。○ハクガン・ガンマカ・ツルにもうぶさい、まはシロメと違むのだとそうも、同通ってしまうだの教をの教したのでした
○老先をいかいよ八十の新話で、ぶろこばしい阿であろうそう。御集は分と事しても御使地ですから、のいだ。るふるだりいだのことれの誓んりそ○小林勇石、小阪りそそぶまでがいつぶ移居のちに知りそせう

○筆をおつぎつぎにのふしるされ大に古巣でそうそう。この前のはサしく調べのくだみていかいとおもひそう。人密この御のは、いまも大に古巣でありました。フネノリイダス、は涸し阪ってそうそうが 敦王女王のこギタぶに、フナノリセムとありそうから、名河にそうのだとどうしてもフナノリでするが 私河とせばフネノリふるでせうがイダスといふほがもいので困りそす。「舟公」といふ支那の熱語を、いつのいきこそうをいそくう、又「公宣」の熱語等、しかし「宣」を「重る」とーたのは賛おです。

土橋先生

（幻談（日本評論社）おめうれそう）

YM原稿用紙
B4 10×20(N)